

今年の水泳の学習を振り返ろう

2026.7.17 校長 西谷 秀幸

今日はプール納めです。今年は、6月にプールに入れない天気の日が続いたので、いつもの年より、入る回数が少なく、残念でした。

7月になってやっとプール日和の日が続くようになりましたね。そんな今年の水泳の学習はどうだったでしょうか。

今年の水泳の学習は、6月1日にオンラインで行いました。校長先生は皆さんに、なぜ日本の学校にはプールがあって水泳の学習をするのか、クイズを出しながらお話ししました。そして、「水に慣れて、水と親しむ」こと、つまり、「水と仲良くなる」「水と友達になる」ことをめあてにして、安全で楽しい水泳の学習にしましょう…という話をしました。

1～2年生は、天気が悪くて、6月に1回もプールに入ることができませんでしたが、先週、やっとプールに入れましたね。まだ、1回しか入っていませんが、安全に学習ができるように、プールでの約束をしっかりと守っていました。水の中に潜って水中ジャンケンをしたり、宝探しをしたりして、楽しく学習ができましたね。

3～4年生は、浮いたり、けのびやバタ足をしたりするのが上手になりました。中には息継ぎができるようになった人もいました。

5～6年生は、自分の目標に向かってコース別で練習した結果、去年よりも泳げるようになった人が増えました。友達と教え合いながら、一緒に練習している姿も印象的でした。

回数は少なかったけど、たくさんの方が「水と仲良し」になったり、「水と友達」になったりして、水泳の学習を楽しんだ2か月でした。

さて、今年の水泳の学習は終わりです。どんなことができるようになったのか、うまくできなかったのはどんなことなのか、来年はどんな風になりたいのか、一人一人、振り返ってみましょう。

そして、1年生から5年生は、来年もまた板五小のプールで、6年生は板二中をはじめ、それぞれ進学する中学校のプールで、水ともっと仲良くなって、泳ぎも上手になるように頑張ってください。

明後日から、皆さんが楽しみにしている夏休みです。夏休みには、家族や友達などと、海や川、プールなどに行く人もいます。

でも、日本では、海や川などで事故で亡くなってしまう人が、毎年、たくさんいます。5年前には、板橋区でも2年生の子が、新河岸川で溺れて亡くなってしまうという悲しい事故があったことは、毎年お話ししていますね。ですから、子供だけでは、海や川には絶対に行かないようにしましょう。

これで、プール納めのお話を終わります。

（裏面に「先生方へ」があります）

〈先生方へ〉

1学期も残り2日間となりました。御多用のところ、通知表の作成、ありがとうございました。

さて、昨年度より、夏休み以降の水泳指導がなくなったため、今日がプール納めとなります。今年度は6月の天候に恵まれず、回数が少ない学年もありましたが、安全に配慮した御指導をありがとうございました。K P T (Keep…うまくいったこと、今後も続けたいこと Problem…うまくいかなかったこと、問題点 Try…新たに挑戦したいこと) を明らかにして、次年度に生かせるようによろしくお願いします。

学校でのプール授業減少の背景とは | 施設維持費・熱中症・教員負担

issues | イシューズ ブログ (<https://senyou.the-issues.jp/blog>) より

学校でのプール授業実施が減っている現状

実際に、自校でプール授業を実施している学校は減少傾向にあります。その主な要因として、全国的に学校のプール施設そのものが廃止されている現状が挙げられます。1996年度には約2万8000校あった小中学校のプールが、2018年度には約2万1000校まで減少。この12年間で約7000校のプールが廃止されたことになり、現在もその流れは続いています。このプール廃止の背景には、老朽化による修繕費用と維持管理費の負担増が挙げられます。多くの学校プールは1970年代から80年代前半に整備されたものであり、老朽化が著しい状況です。プールを建て替えるには、一例として1億5000万円以上の費用が必要となり、維持管理費も年間約150万円必要です。さらに水質管理や清掃、修繕などの費用も加わります。ある自治体では、今後50年間学校でプール設備を保有する場合、維持費、改修費などが計約117億円に達すると試算されました。財政難に直面する自治体にとって、この負担は看過できません。

学校でのプール授業実施が減っている理由

また、プール保有を維持している学校でも授業回数は減少傾向にあります。かつて年間15回程度あったプール授業が、現在では5~6回程度に減っているケースも報告されています。なぜプールを保有している学校でも授業回数が減少しているのでしょうか？主な理由として、近年の熱中症リスク増大と、教員の負担増が挙げられます。

— 中略 —

プール授業を外部委託するという選択肢

プール授業の学校内実施が困難化していることを受け、近年多くの自治体が外部委託を検討しています。具体的には、民間のスイミングスクールやスポーツクラブに授業を委託するケースが増加しています。プール授業を外部委託することには、以下の5つの利点があります。

【コスト削減】学校側でプールの維持管理や改修を行う必要がなくなり、大幅なコスト削減が期待できます。ある自治体の試算では40年間で約21億円の削減が可能とされ、学校で修繕して使用し続ける場合と比べて約6割のコストカットを実現できます。

【専門的な指導】プロのインストラクターによる質の高い指導を受けられるため、児童生徒の泳力向上や水泳への興味関心が高まります。能力別にグループ分けを行い、それぞれのレベルに合った指導をすることで、個々の授業満足度も向上します。

【天候に左右されない】屋内プールを利用することで、天候に左右されずに安定した授業実施が可能になります。雨天や猛暑、冬季であっても計画的に水泳指導を行え、熱中症リスクも大幅に低減できます。

【教員の負担軽減】プールの管理や水泳指導の負担が教員にかからなくなるため、他の教育活動に注力できるようになります。

【民間施設の有効活用】平日の午前中など、一般利用者が少ない時間帯に学校がプールを利用することで、施設の稼働率向上にも貢献します。

プール授業を外部委託する際の課題

プール授業の外部委託には多くのメリットがある一方で、解決すべき課題もあります。

【移動時間】学校から外部施設までの移動時間がネックとなります。遠方の施設を利用する場合、往復1時間以上かかるケースもあり、授業時間の確保が困難になる可能性があります。また、移動のためのバス代などの追加コストが発生する場合もあるでしょう。

【施設の確保】児童生徒数の多い地域、特に大都市圏において、委託先の施設を確保することが難しい現状があります。全ての学校の要望に応えられるだけの民間プール数がない自治体も多く、根本的な課題となっています。

【成績評価の情報共有】外部のインストラクターが指導を行う場合、成績評価のための情報共有が課題となるでしょう。学校の教員が適切な評価を行うためには、外部指導者との緊密な連携が必要です。評価基準の統一や、詳細な指導記録の共有など、より丁寧な情報交換の仕組みを構築することが求められます。

学校プール授業の未来を見据えて

学校のプール授業は、子どもたちの健やかな成長にとってかけがえのないもの。水泳を通して、体力向上や協調性、水難事故への備えなどを学ぶことができます。変化する社会環境に適応しながら本質的な価値を守り、さらなる発展を目指すことは、これからの教育における重要な課題と言えるでしょう。地域住民の理解や民間施設の協力を得ながら、最適な解決策を模索していくことが求められています。